

両側同時前十字靭帯再建術を施行した 3 例

渡辺 裕介¹⁾ 中畑 晶博¹⁾ 湯朝 友基²⁾ 江本 玄²⁾

1) 江本ニーアンドスポーツクリニック リハビリテーション部

2) 江本ニーアンドスポーツクリニック 整形外科

はじめに

両側同時前十字靭帯再建術（以下 B-ACL）、再々建術についての報告は稀である。
今回、当院にて両側同時前十字靭帯再建術及び再々建術を施行した 3 例を経験したので、
若干の文献的考察を加え報告する。

術後リハビリテーション経過

- ◎片方膝伸展装具とブレースレスにて、pick up walker を併用しながら全荷重にて歩行開始。
- ◎下肢の支持性を考慮しながら、両側とも前十字靭帯用装具を装着。
- ◎リハビリプログラムは、当院の片側前十字靭帯再建術（以下 S-ACL）のプロトコールに準じて実施した。

S-ACL プロトコール

	骨付き膝蓋腱 (以下 BTB)	半腱様筋腱、薄筋腱 (以下 STG)
術当日～	全荷重許可、OKC、簡易な CKC	
術後 1 ヶ月	多方向への CKC	
術後 2 ヶ月	ランニング、ジャンプ許可	多方向への CKC
術後 3 ヶ月	競技別トレーニング	
術後 4 ヶ月	条件クリアでスポーツ復帰	ランニング、ジャンプ許可
術後 5 ヶ月		競技別トレーニング
術後 6 ヶ月		条件クリアでスポーツ復帰

症例 1

29 歳 男性 スポーツ:サッカー

現病歴:

H13 年 左膝 ACL 再建術施行 (STG)

H14 年 右膝 ACL 再建術施行 (STG)

その後、左膝の不安定感あるもサッカー継続

H22 年 1 月 サッカープレー中に右膝再受傷、精査より左膝も再損傷と診断

H22 年 3 月 両側同時前十字靭帯再々建術施行

症例 1 術前 X 線所見

左膝 正面像

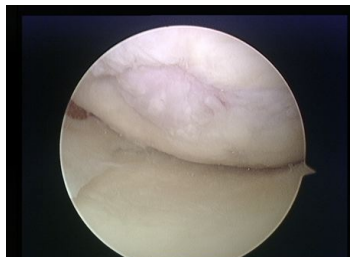


症例 1 手術所見

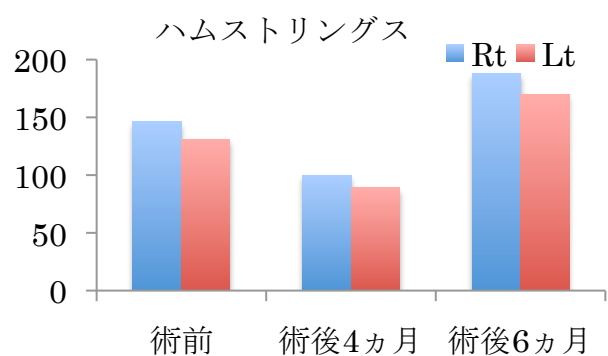
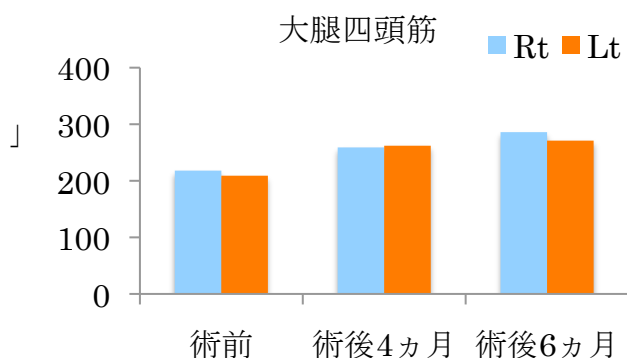
移植腱: BTB

右膝: 半月板、軟骨損傷なし

左膝: 膝蓋大腿関節軟骨損傷、内外側半月板損傷、
大腿骨内側顆軟骨損傷、関節ねずみ、



症例 1 筋力回復の推移



症例 2

18歳 女性 スポーツ:柔道

現病歴:

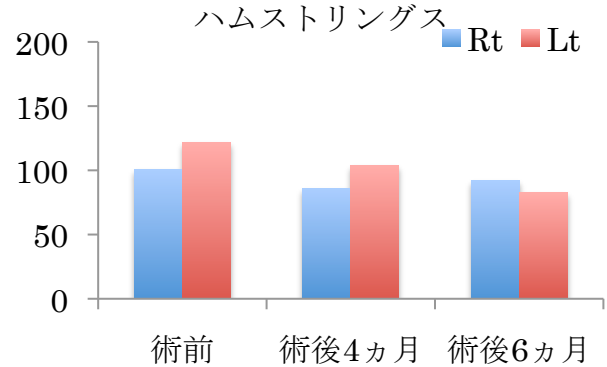
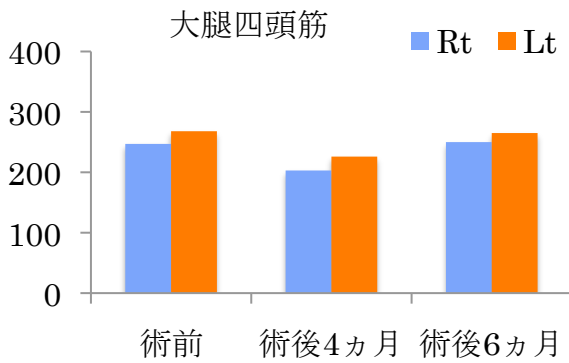
H20年 柔道の試合中に右膝受傷 その後、柔道で左膝受傷

H22年1月 B-ACL 施行

移植腱: STG (1ルート)

右膝:内側半月板損傷 左膝:内側半月板損傷

症例 2 筋力回復の推移



症例 3

18歳 女性 スポーツ:柔道

現病歴:

H17年 柔道の試合中、左膝を受傷

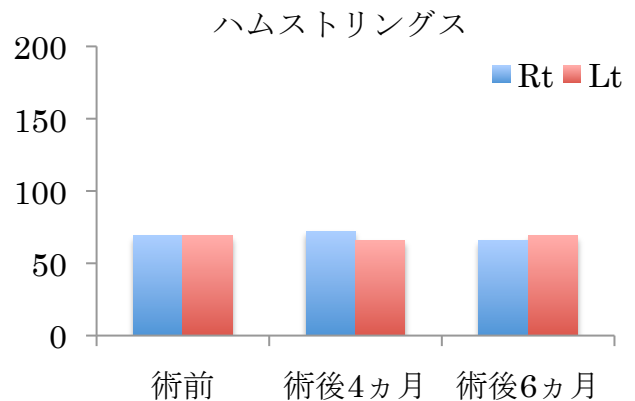
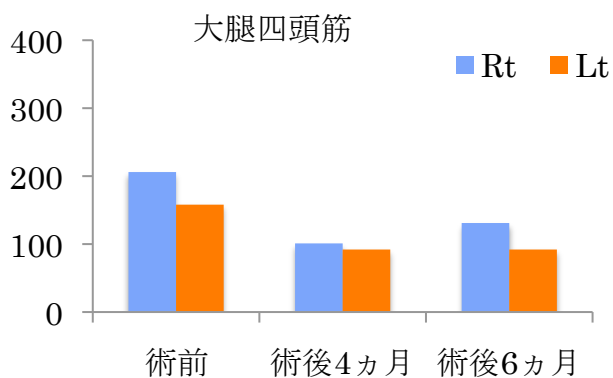
H19年 柔道の試合中、右膝を受傷 その後も柔道継続

H23年2月 B-ACL 施行

移植腱: BTB

右膝:内側半月板損傷 左膝:外側半月板損傷

症例 3 筋力回復の推移



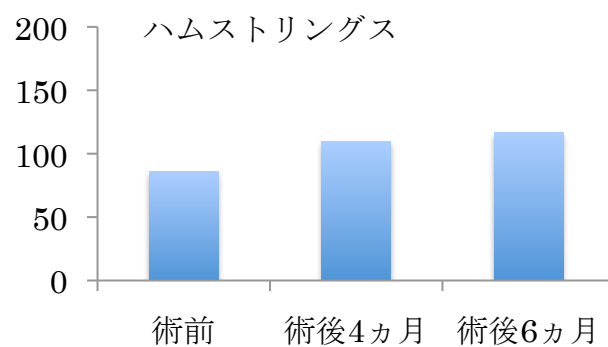
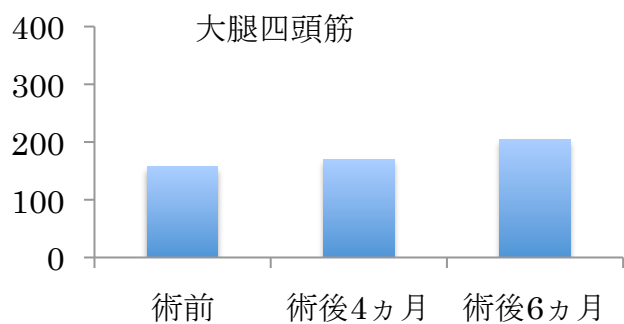
S-ACL

当院にて2007年12月から2011年1月までにACL再建術を施行し、経過観察可能であった30歳未満の患者64例。筋力、仕事復帰、スポーツ復帰時期を調査。

移植腱 BTB : 38例 STG : 26例

男性 : 26例 女性 : 38例

S-ACL 筋力推移



復帰時期

	仕事復帰	スポーツ復帰
症例 1	5ヵ月	9ヵ月
症例 2	5ヵ月	8ヵ月
症例 3	2ヵ月	未 (8ヵ月現在)
S-ACL	2.9ヵ月	6.8ヵ月

考察 1

ACL 再建術後の仕事復帰、スポーツ復帰時期について

Shelbourne K.D.、Jari.S.

B-ACL 仕事復帰 4.1 週 スポーツ復帰 6.1 ヶ月

S-ACL 仕事復帰 3.0 週 スポーツ復帰 6.3 ヶ月

有意差を認めなかった。

Am J Sports Med. 2002 Nov-Dec;30(6)

今回の 3 例は、当院の S-ACL と比較すると若干遅延するも全症例とも、仕事復帰に至っており、2 例はスポーツ復帰可能となっている。

考察 2

今回の 3 症例は、

- ・ S-ACL と同様のプロトコールにて、リハビリテーションを実施する事が出来た
- ・ 合併症、再断裂も起っていない

また、S-ACL を 2 回に分けて行うよりも、治療期間の短縮や治療費の削減につながると考える。

考察 3

症例 1: 両側同時前十字靭帯再々建術 左膝の著明な関節症所見

筋力回復も順調であり、仕事復帰、スポーツ復帰も可能であった。

両側同時前十字靭帯再々建術であっても良好な経過を得る事が出来た。

まとめ

- ・ 今回、両側同時前十字靭帯再健術及び再々建術を行った 3 症例を経験した。
- ・ 両側同時前十字靭帯再建術は、片側前十字靭帯再健術と遜色なく安全であり、片側前十字靭帯再健術を 2 度に分けて行うよりも治療期間の短縮や治療費の削減につながると予測される。
- ・ 両側同時前十字靭帯再々建術であっても仕事復帰、スポーツ復帰が可能であり良好な経過を得る事が出来た。